

白鷹町についての報告

高橋伶奈 8526307

佐藤想 8225305

ゼッテル・オット 8925502

ロー・サマンサ 8723525

1. 4日間の現地スタディツアーの活動の流れと概要

• カレーのレシピ制作

- 農業の現場に入り、現状を知る
- 農家さんたちの声を聴く
- 料理（カレー）で他人に届ける



1日目の流れ

- 顔合わせ→白鷹町の案内
- 白鷹山、あゆ茶屋、深山観音



雨の中の白鷹山



最上川にある「やな」



深山観音

2日目

- 農業体験→雨で中止
- 田んぼ見学、「やまのえくぼトマト」の土屋さんとお話を
- 午後は直売所で買い物、成果物のカレーの試作・レシピ制作



やまのえくぼトマトの
トマトジュース



「棚田」田んぼ



生産者の名前が見れる！

3日目

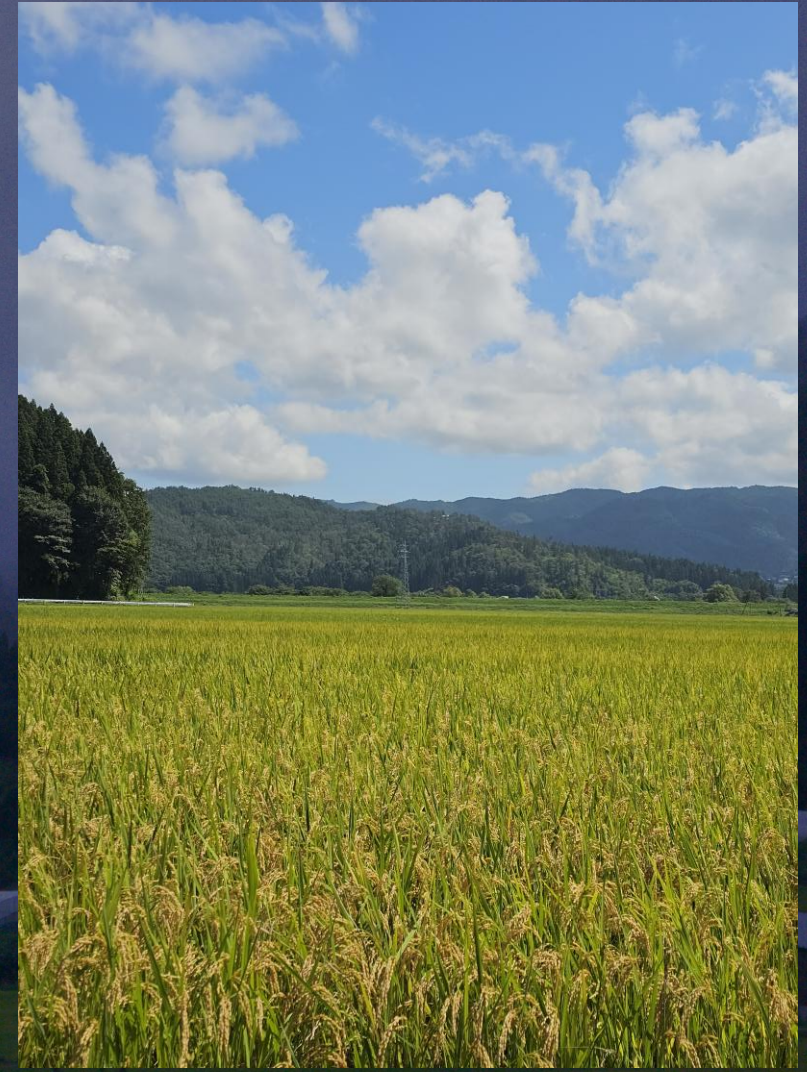
- 株式会社「サンファームしらたか」で見学
- 諏訪さんご夫婦のグリーンハウスを見学
- サンファームでお米の収穫を見学
- レシピ制作、翌日の食材の下ごしらえ



乾燥機



収穫



3日目はやっと晴れ！

4日目

- カレーの調理
- 役場で発表＋カレーのふるまい
- 振り返り、解散！ありがとう、白鷹町！



発表お疲れさまでした！



山形県白鷹町【公式】のインスタより

2. 各班が自治体から与えられている課題の提示

単なる観光で終わらせずに、持続的な「関係人口」として町の魅力を再定義・発信

2.1. 地域が直面する課題

農村現場の危機：

高齢化・担い手不足により農村の維持が困難。

発信力不足：

地域の魅力や農産物の価値が外部に伝わりきっていない。

従来限界：

一回限りの「観光客」の受け入れでは根本解決にはならない。



2. 各班が自治体から与えられている課題の提示

単なる観光で終わらせずに、持続的な「関係人口」として町の魅力を再定義・発信

2.2. ツアーのミッション

関係人口の創出：

一度で終わらず、継続的にかかわる仲間を作る。

現場のリアル観理解：

農家の課題や苦勞を肌で感じ、当事者意識を持つ。

新しい視点の提示：

外大生ならではの感覚と対話で、地域に新しい刺激を与える。



2. 各班が自治体から与えられている課題の提示

単なる観光で終わらせずに、持続的な「関係人口」として町の魅力を再定義・発信

2.3. 求められている成果物

①白鷹オリジナルカレーのレシピ制作

単なる料理ではなく、「なぜその食材を選ぶのか」という背景・ストーリーを言語化。

②SNSでのリアルタイム発信

ツアー中の学びや「素直に面白かったこと」を学生目線で外部へ発信。

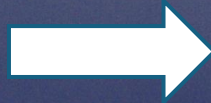


(3) (2) の課題解決のための提言とその提言を実現するための具体的な方策

実現への道筋を、具体的に、そして段階的に考えて方策を提示すること。

- 高齢化→農家の担い手不足、農地の減少

引退農家から農地が譲渡



低コストで農業開始

- 発信力不足→農家の収入の行き詰まり、人口減少

農業を開始する人に始めやすい地盤をアピール

生活圏内の便利さをアピール



4. 私たちがこれからできること・白鷹町との関わり方

01 「物語」を伝える発信 価格の妥当性と魅力を届ける

- ・農家さんの「**作り手の誇りやこだわり**」を言語化
- ・単なる作物の魅力だけでなく、華夏化の背景にある「**努力や物語**」をSNSやレシピ等で若者へ発信

 まず「**知る**」きっかけを周囲に作る

02 当事者目線での意識改革 消費者の行動と意識を変える

- ・体験や対談を通して感じた「**生産者の大変さと感謝**」を忘れない
- ・フードロス削減や地域経済への貢献を「**自分たちの問題**」として捉え、日常の選択を変える

 「**感謝と当事者意識**」の輪を広げる

03 継続的な伴走とサポート 現場の課題(人手不足・資金)に 寄り添う

- ・人手不足や子育て・自動化コストに悩む農家さんの現状理解
- ・一回限りの体験で終わらず、**継続的なサポート(関係人口)**として関わり続ける

 「**一過性の観光客**」脱却
の実践

 白鷹町の農家さんの誇りと現実を自分後音として受け止め、都市と現場をつなぐ関係人口として行動し続ける。

お清聴ありがとうございました！